

大田区の 景況

平成 23 年 7 月～9 月期

調査対象

製造業 166 社 小売業 95 社

調査方法 郵送アンケート調査

調査機関 (株)東京商工リサーチ

景気予報



大きく下降 下降 やや下降 横ばい やや上昇 上昇 大きく上昇

これは、平成 23 年 10 月上旬に調べた平成 23 年 7 月～9 月期区内中小企業の景気動向と、これから先 3 か月（平成 23 年 10 月～12 月期）の予想をまとめたものです。

製 造 業	今 期		<p>製造業全体の主要指標について見ますと、業況は低調感をわずかに強めています。売上額は若干低迷し、収益は減益幅が大きく拡大しています。受注残はやや減少を強めています。</p> <p>価格面では、原材料価格は上昇が大きく弱まり落ち着きを見せ、販売価格は下降幅が若干拡大しました。在庫は過剰感がかなり強まっています。来期の原材料価格は上昇幅がやや縮小し、販売価格は下降傾向を若干強めると予想されています。</p> <p>業況が低調感をわずかに強めた要因としては、「売上額の低迷」「販売価格の下降幅が拡大」「在庫の過剰感が強まった」などに見られる売上不振と、それらによる収益の悪化が考えられます。</p> <p>経営上の問題点は、1 位「売上の停滞・減少」71%、2 位「利幅の縮小」29%、3 位「原材料高」24%、4 位「同業者間の競争の激化」23%、5 位「販売納入先からの値下げ要請」17%となりました。前期と比較した主な動きは、「原材料高」は減少しましたが、「売上の停滞・減少」「販売納入先からの値下げ要請」は増加しました。</p> <p>重点経営施策では、1 位「経費を節減する」57%、2 位「販路を広げる」49%、3 位「新製品・技術を開発する」25%、4 位「情報力を強化する」22%、5 位「人材を確保する」15%となり、三期連続で同順位になりました。</p> <p>来期の業況は悪化傾向がかなり強まると見込まれています。</p>
	来 期		

小 売 業	今 期		<p>小売業全体の主要指標について見ますと、業況は水面下ながら大きく改善しています。売上額と収益はともに減少・減益幅が大きく縮小しています。</p> <p>価格面では、販売価格は前期同様の低下基調で推移し、仕入価格は上昇幅がやや縮小しています。在庫は過剰から適正水準へと大幅に推移しました。来期の販売価格は下降を幾分強め、仕入価格はほぼ横這いで推移すると思われます。在庫は適正水準からわずかに過剰へ推移すると見込まれています。</p> <p>業況が大きく改善した要因としては、「売上額の減少が大きく縮小」に見られる売上の改善と、それによる収益の改善が考えられます。</p> <p>経営上の問題点は、1 位「売上の停滞・減少」74%、2 位「利幅の縮小」26%、3 位「商店街の集客力の低下」24%となりました。前期と比較した主な動きは、「売上の停滞・減少」「商店街の集客力の低下」は増加しましたが、「利幅の縮小」「同業者間の競争激化」「取引先の減少」は減少しました。</p> <p>重点経営施策では、1 位「経費を節減する」55%、2 位「品揃えを改善する」36%、3 位「宣伝・広報を強化する」と「売れ筋商品を取扱う」がともに 21%となりました。</p> <p>来期の業況は大きく低迷すると予想されています。</p>
	来 期		

経営上の問題点

経営上の問題点（製造業） (%)

	平成22年 7～9月期	10～12月期	平成23年 1～3月期	4～6月期	7～9月期
1位	売上の停滞・減少 73	売上の停滞・減少 76	売上の停滞・減少 72	売上の停滞・減少 66	売上の停滞・減少 71
2位	利幅の縮小 35	利幅の縮小 33	原材料高 33	原材料高 32	利幅の縮小 29
3位	同業者間の競争の激化 31	同業者間の競争の激化 27	利幅の縮小 27	利幅の縮小 30	原材料高 24
4位	販売納入先からの値下要請 21	販売納入先からの値下要請 23	同業者間の競争の激化 21	同業者間の競争の激化 21	同業者間の競争の激化 23
5位	原材料高 21	原材料高 20	工場・機械の狭小・老朽化 18	工場・機械の狭小・老朽化 20	販売納入先からの値下要請 17

経営上の問題点（小売業） (%)

	平成22年 7～9月期	10～12月期	平成23年 1～3月期	4～6月期	7～9月期
1位	売上の停滞・減少 77	売上の停滞・減少 76	売上の停滞・減少 74	売上の停滞・減少 69	売上の停滞・減少 74
2位	商店街の集客力の低下 30	商店街の集客力の低下 39	同業者間の競争の激化 29	利幅の縮小 31	利幅の縮小 26
3位	同業者間の競争の激化 25	同業者間の競争の激化 24	利幅の縮小 28	同業者間の競争の激化 28	商店街の集客力の低下 24
4位	取引先の減少 20	利幅の縮小 20	仕入先からの値上げ要請 19	取引先の減少 23	同業者間の競争の激化 20
5位	利幅の縮小 18	取引先の減少 18	商店街の集客力の低下 16	大型店との競争の激化 18	取引先の減少 18

コメント

製造業

- ① 円高の影響がこれから種々出てくる。最近発注先より、「国内の生産が海外へ出ていき、発注が減少する」という話が多い。（輸送用機械器具）
- ② 対応しているトラック業界で震災後生産が止まり、4～6月は例年の半分以下の売上。6月以降回復し、7～9月でようやく一息ついた。（同上）
- ③ 震災の影響（部材の調達難等）もやっと平常並になり、安心している。業績は月に依って違うが、横這いの状態。（電気機械器具）
- ④ 親会社の円高による中国への製品シフトの為、今後は苦しい状況になる。（同上）
- ⑤ 仕事の減少により、資金繰りが悪化し、倒産の方向に向かっている。（一般機械器具、金型）
- ⑥ リーマンショック以降、売上が減少していたが、徐々にではあるが微増傾向にある。（同上）
- ⑦ 前年度に比べ、多少売上が回復してきた。（金属製品、建設用金属、金属プレス）
- ⑧ 需要が低迷している。価格面、同業者間競争等において、今後一層厳しい状況が続くと思われる。（同上）
- ⑨ 非常に良い。（精密機械器具）
- ⑩ 当社は計測センサーを造っているもので、景気の影響を諸に受け易い。（同上）

小売業

- ① 地デジ化とエコポイントで今年前半は売上増となった。今後は太陽光発電をその代わりにしたいと考えている。（家具、家電、医薬品）
- ② リーマンショック後に仕入価格が全体的に上がったが、飲食代の値上げはしなかった。しかし、このままでは赤字が拡大するばかりなので、今後はメニューの中で、値上げ可能なものは少し上げていくことになりそうである。（飲食店）
- ③ 商店街に人通りが減少。客数も減り売上ダウン。大型店との競争が激しくなったと思う。（飲食料品）
- ④ 厳しい状況が続いている。震災後の消費行動の変化に対応していかなければと思っている。（同上）
- ⑤ 状況が悪く、自然災害も多く、消費ムードが上がらない。顧客の来店頻度が極度に悪くなっている。景気回復を望む。（衣服、身の回り品）

特別調査「中小企業における災害等への取組状況（事業継続計画（BCP））について」

注）以下における前回調査とは、「大田区 中業企業の景況（平成21年10月～12月期）」掲載の特別調査「中小企業における災害等への取組状況（事業継続計画（BCP））について」を指します。

問1. 普段もっとも意識している災害（3つまで回答可）

（単位：％）

業種		地震	火災	水害 （台風など）	それ以外の 自然災害	新型インフル エンザなどの 伝染病	犯罪行為 （大規模 テロなど）	その他	あまり意識 していない
全体	今回調査	77.0	67.5	30.9	4.5	20.6	7.8	0.8	6.2
	前回調査	64.7	64.3	14.1	4.6	39.4	7.1	0.8	10.4
製造業	今回調査	77.1	70.7	31.2	5.1	15.3	5.1	0.0	8.9
	前回調査	66.7	67.3	13.1	4.2	39.9	5.4	0.6	10.1
小売業	今回調査	76.7	61.6	30.2	3.5	30.2	12.8	2.3	1.2
	前回調査	60.3	57.5	16.4	5.5	38.4	11.0	1.4	11.0

問2. 事業継続計画（BCP）の有無とその理由

（単位：％）

業種		作成（予定）している理由						作成していない理由			
		行政からの 薦め	業界団体 からの薦め	取引先 からの要求	他社が災害 を受けた	自社が災害 にあった	その他	日常業務が 忙しく 余裕がない	策定の ための人材 がいない	BCPIに ついてよく わからない	当社には 必要ない
全体	今回調査	1.3	3.6	6.3	0.9	1.3	1.3	17.0	13.9	32.3	22.0
	前回調査	0.5	1.8	4.5	0.0	0.0	3.2	20.9	12.3	39.5	17.3
製造業	今回調査	0.7	2.1	8.4	1.4	1.4	1.4	16.8	17.5	29.4	21.0
	前回調査	0.0	1.3	6.4	0.0	0.0	1.9	22.4	13.5	39.7	14.7
小売業	今回調査	2.5	6.3	2.5	0.0	1.3	1.3	17.5	7.5	37.5	23.8
	前回調査	1.6	3.1	0.0	0.0	0.0	6.3	17.2	9.4	39.1	23.4

問3. 災害時の対策（人的資源などの状況）について

（単位：％）

業種		経営者が不測の事態で不在と なった場合、代わりの者がいる			緊急事態が起こった場合、 従業員と連絡を取り合うことができる		
		はい	いいえ	不明	はい	いいえ	不明
全体	今回調査	65.4	29.6	5.0	83.8	7.2	8.9
	前回調査	66.7	24.5	8.9	85.2	5.7	9.1
製造業	今回調査	68.2	28.7	3.2	87.9	7.0	5.1
	前回調査	67.1	22.8	10.2	85.8	4.9	9.3
小売業	今回調査	60.2	31.3	8.4	75.6	7.7	16.7
	前回調査	65.7	28.6	5.7	83.8	7.4	8.8

問4. 大規模地震への対策について（3つまで回答可）

（単位：％）

業種		事務所の 耐震補強	設備の 転倒防止 （固定等）	施設を分散 し、他所で 事業可能	原材料を他 企業から代替 調達可能	当面、協力 企業への 代替生産 依頼が可能	災害用の 損害保険 への加入	その他	特に対策は していない
全体	今回調査	11.6	24.0	3.9	7.7	13.3	24.5	2.6	46.8
	前回調査	10.8	21.1	8.6	6.9	11.6	28.9	1.3	44.0
製造業	今回調査	11.1	26.1	4.6	11.1	18.3	22.2	2.6	43.1
	前回調査	9.8	23.9	9.2	7.4	12.9	26.4	1.2	40.5
小売業	今回調査	12.5	20.0	2.5	1.3	3.8	28.8	2.5	53.8
	前回調査	13.0	14.5	7.2	5.8	8.7	34.8	1.4	52.2

問5. 現預金の保有程度について

（単位：％）

業種		売上げの 3か月分以上	売上げの 1～3か月分	売上げの 2週間分～ 1か月分	売上げの 2週間分未満	ほとんど保有 していない	把握 していない
全体	今回調査	14.3	25.2	18.9	9.2	26.5	5.9
	前回調査	15.0	25.6	16.7	10.3	25.6	6.8
製造業	今回調査	17.8	30.6	21.7	3.8	20.4	5.7
	前回調査	19.0	31.3	18.4	9.2	17.8	4.3
小売業	今回調査	7.4	14.8	13.6	19.8	38.3	6.2
	前回調査	5.6	12.7	12.7	12.7	43.7	12.7

東京都内の概況／業況：製造業は緩やかながら回復が続く

見通し：上昇期待が続く

概況

平成 23 年 9 月の都内中小企業の業況 D I（業況が「良い」とした企業割合－「悪い」とした企業割合）は－41 となり、前期に比べて 5 ポイント改善しました。今後 3 か月（平成 23 年 10～12 月）の業況見通し D I では、今期比 18 ポイント増の－23 と厳しさがかなり和らぐと見込まれています。

製造業

前期（23 年 6 月）と比較すると、業況は大幅に上向き、売上高は前期同様の減少幅で推移しています。

価格面では、販売価格は下降傾向が大幅に改善し、仕入価格は上昇が若干弱まり落ち着きを見せました。

業種別に見ますと、「住宅・建物関連」は極端に改善し、「衣料・身の回り品」「材料・部品」「一般・精密機械等」は大きく上向きました。「紙・印刷」と「その他」の製造業では悪化幅がわずかに拡大し、「電気機器」は、特に大きく低調感を強めました。

今後 3 か月の見通しは、業況は厳しさがかなり和らぎ、売上高も幾分持ち直すと予想されています。

小売業

前期（23 年 6 月）と比較すると、業況は前期同様の厳しさが続いています。売上高は減少を大きく強めました。

価格面では、販売価格は厳しさが幾分和らぎ、仕入価格はほぼ横這いで推移しました。

業種別に見ますと、「衣料・身の回り品」「食料品」「耐久消費財」は悪化幅が若干拡大しました。「日用雑貨」はやや上向き、「余暇関連」は大幅に改善しました。

今後 3 か月の見通しは、業況は水面下ながら極端に改善すると予想されており、売上高も減少に大きく歯止めがかかると見込まれています。

この調査についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

大田区産業経済部産業振興課

TEL : 3733-6181 FAX : 3733-6103

E-mail : sangyo@city.ota.tokyo.jp